



令和6年度家庭教育支援 専門研修会 開催報告



日時

令和6年9月12日(木)13:30~16:30

会場

滋賀庁東館7階大会議室

参加人数

56名(会場 32名、オンライン 24名)

内容

○講演：「配慮を要する家庭への寄り添いと支援～つながりの大切さ～」
講師：新崎 国広氏（一般社団法人ボランティアセンター支援機構
おおさか 代表理事

ふくしと教育の実践研究所

SOLA(Social-Labo) 主宰

○グループ別協議(配慮を要する家庭への対応について)



当日の様子

家庭教育支援に関わる皆様が「助け上手、助けられ上手」になってください。



演習では、具体的事例をもとに
解決策について話し合いました。

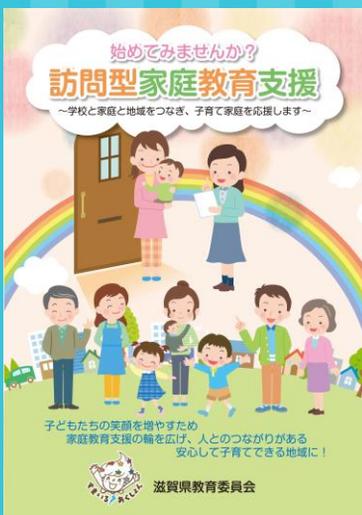




参加者の感想より



- 「福祉共育」に求められる姿勢「WALKING」のすすめは、心に留めておきたいと思いました。
- 受援力というキーワードにもふれていただきよかったです。温かいまなざしで地域を作っていければと思いました。
- 「幸せになるための四つの因子」、「信頼関係のない指導や助言はクレームになる」が印象に残りました。
- 支援を必要とする保護者の方は、子どもさんの良いところを見つけることが苦手な方も多いので、子どもさんのがんばりを保護者の方に伝えて、良い関係づくりができればと思いました。
- 相談を受けた時の対応の仕方や、心構えを丁寧にわかりやすく学ぶことができました。
- わかりやすく支援の方法やつながり方を教えていただき、大変参考になりました。直接的なことは専門職にお任せして、自身のできる範囲からつないでいきたいです。
- まずは自分自身が「助け上手、助けられ上手」になり、周りにもそうなるように、関わっていきたいと思いました。
- 行政、学校、地域が子どもを真ん中につなげる仕組みはまだまだ進んでいないのが実情ということを実感しました。
- 支援のつながり、専門の方とのチームワークの構築が必要だと感じました。
- つながり、信頼関係、専門家へのつなぎなど話すことができたことは大変貴重な時間でした。家庭教育支援については、本校で昨年から取り組んでいるコミュニティ・スクール、地域学校協働本部での取組にもつなげて行ければと改めて感じました。
- 立場の異なる方の思いや支援の仕方を聞くことができ、みんなでチカラを合わせていけば少しずつ道は開けていくかも！と希望を持つことができました。



訪問型家庭教育支援とは？

学びの場や相談の場などに出向くことが難しい家庭を訪問して支援を届け、保護者への支援を通じて子どもの育ちを支えるアウトリーチ型の家庭教育支援活動です。

具体的な取組内容

- ①保護者からの相談への対応
- ②保護者に対する情報提供
- ③専門機関への橋渡し

訪問の目的は、届ける支援を必要とされている家庭との「つながりづくり」です。会話や交流を通して顔の見えるコミュニケーションづくりを！

◎訪問型家庭教育支援の主な役割

- ①家庭の孤立化を防ぎ、問題の発生予防や早期発見につなげます。
- ②保護者の話を丁寧に聞いて 悩みや不安を解消します。
- ③保護者が学びの場などの拠点につながるよう支援します。
- ④必要に応じて、関係諸機関の支援につなぎます。

